

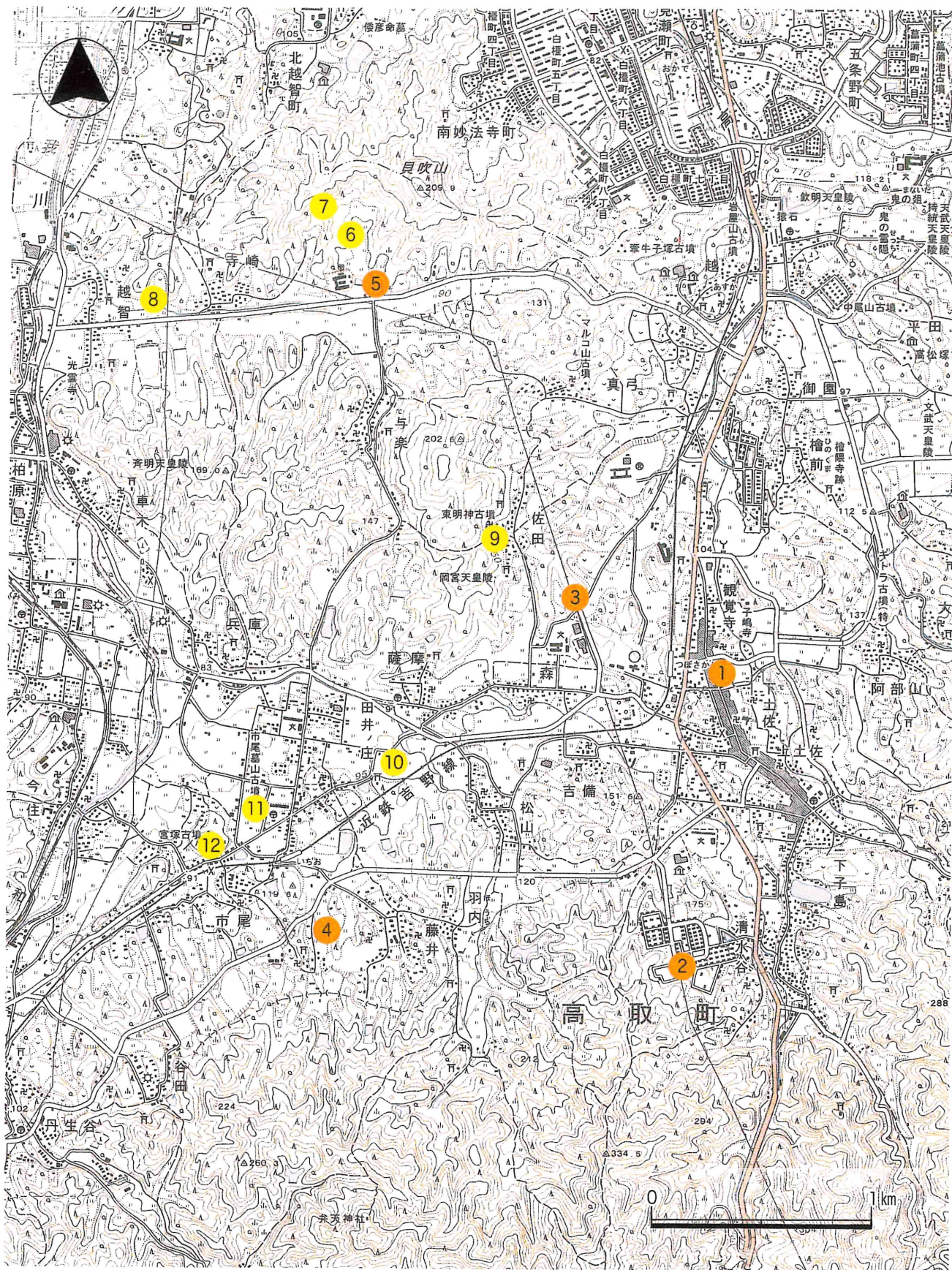
# 高取の考古学Ⅱ

奈良・平安時代の遺跡と遺物



高取町教育委員会





展示遺跡①～⑤（オレンジ色）と周辺の主な遺跡（黄色）

- |            |           |           |             |
|------------|-----------|-----------|-------------|
| 1 観音寺遺跡    | 2 清水谷遺跡   | 3 森カシ谷遺跡  | 4 藤井イノノク古墳群 |
| 5 与楽カンジョ古墳 | 6 与楽鐘子塚古墳 | 7 寺崎白壁塚古墳 | 8 越智城館跡     |
| 9 佐田東明神古墳  | 10 薩摩遺跡   | 11 市尾墓山古墳 | 12 市尾宮塚古墳   |

# 1. 高取町内の奈良時代の遺構

観覚寺遺跡や清水谷遺跡から奈良時代後半（8世紀）の遺構が検出されました。観覚寺遺跡第9次調査地は、丘陵の斜面を整地して大壁遺構おおかべを築いています。この大壁遺構西側の土壌から土器などが多く出土しました。土器は、西側の一段高くなった位置から廃棄された状況で出土しました。土器の使用された時期は、平安時代初頭と考えられます。また製塩土器や土馬、鉄製の刀子、焼けた木片なども出土しました。

清水谷遺跡『現グリーンタウン』第3次調査では、掘立柱建物ほったてばしら、溝などが検出され、同じように土器や土馬などが出土しました。



観覚寺遺跡第9次調査土壌



土馬



製塩土器

## 2. 観覚寺遺跡出土土器の墨書

9次調査地から出土した墨書土器は39個体確認されました。墨書は土師器椀や皿の底部中央に1文字で『隅』（すみ・ぐう）と記されています。現在この字が使われた土器は、他の遺跡で見つかっていません。墨書された文字は土器を使う人名や地域、その人が所属する役所名が書かれることが普通です。この字の意味は、重箱の隅、部屋の片隅といった場所や位置を示しています。また別の意味では、<sup>へんきょう</sup>辺境の地という意味もあります。観覚寺遺跡のある所は、都から隅にあたるのか、都が平城京から離れて行くことを指しているのか、辺境の地に赴任するのか、したのか、文字にどういう意味があったのか興味は尽きません。



観覚寺遺跡の墨書土器

### 3. 高取町の古代墓 1 (火葬墓)

高取町森カシ谷遺跡から8世紀代の壺が出土しました。壺は口縁径12cm、器高14cmを測る須恵器の薬壺型壺と呼ばれ、この種類の器は、ほとんどが火葬骨を納める骨蔵器として使われています。森カシ谷塚古墳の墳丘西側の裾で、蓋もなく盗掘された状態で見つかりました。また、カシ谷塚古墳の墳丘南裾の方形の土壇から鉄板が検出されました。長さ31cm×21cm、厚さ4mmの長方形で、鉄板は一般に、8世紀～9世紀の墓から見つかり、墓地を借り受ける買地券や墓誌などと考えられています。同じサイズの鉄板が近畿地方を中心に6枚出土していますが、京都市の西野山古墓から2枚出土していることが判っています。西野山古墓の被葬者は、坂上田村麻呂と推測されており、故郷に同様の鉄板が出土したことは大変興味深い事です。また、清水谷遺跡14号地点の土壇から土師器甕に高杯を蓋に転用した火葬墓が見つかり、火葬された炭や灰の混じった土から銅釘・銅製帯金具が検出されました。



須恵器壺



鉄板出土状況



鉄板

## 4. 高取の古代墓 2 (木棺墓)

藤井イノラク3号墳や清水谷10号墳など古墳の墳丘裾を切り込んで、木棺を直葬する木棺墓が発掘されました。木棺墓には、須恵器の瓶子、黒色土器の甕、杯、椀などの土器が副葬されています。木棺材を結束した鉄釘なども出土しました。

また、横穴式石室から9世紀～10世紀の土器が出土することがあります。与楽カンジョ古墳の調査では、玄室から須恵器の甕、杯、瓶子、土師器杯、黒色土器杯、灰釉陶器壺が出土しました。これらの土器は、横穴式石室を再利用した墓に伴う副葬品と考えられます。



藤井イノラク木棺墓



町内出土須恵器瓶子



観音寺遺跡 土壙

2014.3